

しましたが、コンセプトの統一などはこれからというレベルでありました。そういう状況下で3施設のうち、中医学研究所と健康づくり情報交流センター（現在の「四万十いやしの里」）は中村市が所有して運営し、宿泊施設（現在の「四万十の宿」）はJR四国が所有し運営するという構想に基づき、中村市からJR四国に協力依頼があったものです。小職が着任したのはまさにそのタイミングでした。

着任して最初に取り組んだことは、このコンセプトをどうするかということでした。そこで、99年の9月に小職が日本興業銀行神戸支店時代に親交のあった阪南大学の故喜多野教授（阪急電鉄の出身で、集客の専門家）を招き、現地（高知県中村市下田；四万十川河口付近、オートキャンプ場「とまるっと」隣接地、開発面積約12,000㎡）を視察して色々アドバイスを求めたところ、癒しで統一して宿泊施設はエコロジーホテルを検討しては如何かということと、加えてエコロジーホテルの権威として、名古屋にグリーンビル協会の創業者で、PES建築環境設計の石黒先生がいらっしゃるという情報を得ることができました。そもそも、小職のJR四国での事業開発戦略とは、四国の豊かな自然、多彩な歴史、多様な文化、そして小規模・分散型の商圈という四国特有の事情を考慮し、四国ならではの「癒し」と「手作り」をビジネスコンセプトに据え、長打よりも単打をいもづる式につなげていく戦略を打ち出すべきであると考えておりましたので、このプロジェクトを、「癒し」でコンセプトを統一し、「手作り」で四国の西南地域にリゾートタイプのエコロジーホテルを創ることができれば、自分の事業開発戦略とも合致し、願ってもないことだと受け止めました。

そこで、10月初旬に名古屋のPES建築環境設計を往訪し、石黒先生にライフワークとして取り組んでいただけないかとお願いましたところ、石黒先生は早速10月下旬にJR四国を来訪して下さり、社長、役員陣とも顔合わせをして、グリーンデベロップメントの素晴らしさを説明していただきました。これが本プロジェクトの実質的なスタートになったと思います。

当時、中村市の東洋医学の里推進室とJR四国の事業開発室では、お互いに往来しながら頻繁にプロジェクト実現に向けてのミーティングを繰り返していましたが、その過程で次第に、癒しを基本コンセプトとすることや、石黒先生の力量を評価して、PES建築環境設計に設計・コンサルをお願いすることなどの合意形成がなされていきました。

具体的には、2000年7月に中村市とJR四国との間で基本合意書の締結。そして2000年10月には、中村市は健康づくり情報交流センターの設計・コンサルの契約を、また、JR四国は宿泊施設の設計・コンサルの契約を、PES建築環境設計との間で締結する運びとなりました。その後は、PES建築環境設計が加わり、中村市とJR四国G（含むUSK）の3者の間でプロジェクト実現に向け協議を重ねていくこととなりました。それは、当時のNHKの人気番組であった、中島みゆきの歌唱するプロジェクトXをまさに地で行くものであったと思います。

そして、2001年3月に宿泊施設の設計納品、同年7月には健康づくり情報交流センターの設計納品を経て、2001年9月に工事着工、2002年5月に竣工、同年7月2日に開業となった次第です。その間に、2001年7月には宿泊施設の運営を行うこととなっていたUSKが、中村市の情報交流センターの運営についても、コンセプトの徹底、サービスの向上、軽費の節減に有利であるとの判断から、中村市より正式に業務を受託することとなり、USKの宿泊施設の単独運営から一体運営となりました。また名称についても、東洋医学の里から「四万十いやしの里」に変更され、表の通りとなった次第です。